

古民家再生 江戸薫るお宿

佐原商家町ホテル

観光を滞在型へ ■訪日客も視野

古民家を再生して滞在型観光地に……。江戸情緒が残る香取市の佐原地区に、そんな願いを込めた「佐原商家町ホテル NIPPONIA」がオープンした。古い民家を改修した客室で、観光客にゆっくりと滞在してもらおう狙いだ。

フロントは、小野川にかゝる忠敬橋そばの土産物屋「中村屋商店」（同市佐原）を越す老舗で鍵を受け取り、ホテルに向かう。商店

内にはフランス料理のレストランもある。ホテルは2カ所に計4棟あり、かつて料亭や製綿業を営んでいた商家だった。長らく使われず「ゴミ屋敷」と化していた建物もあったが、地元の大工8人が古民家のたたずまいを残しながら、宿泊できるように修繕。建具は解体した古民家のもを再利用した。ベッドや机を入れた各棟には、ちょっとした老舗旅館の雰囲気が漂う。

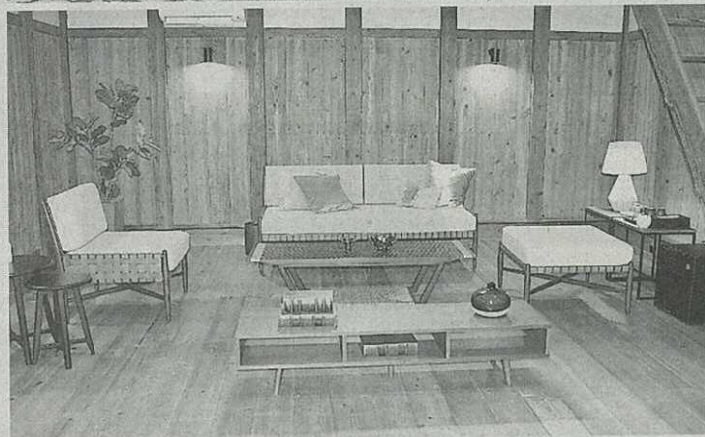
改修作業にあたった大工の1人、浅井邦彦さん(31)は「風合いを壊さないようにした」という。ホテル誕生のきっかけは、2015年秋に誕生した観光ファンドだ。京葉銀行（本店・千葉市中央区）が、地域経済活性化支援機構などと「千葉・江戸優り佐原観光活性化投資事業有限責任組合」を5億円の出資金で設立。観光客の滞在時間が短く、日帰りが多い佐原地区の課題克服をめざすことにした。成田空港から約30分という地の利を生かして外国人宿泊客を取り込むべく、「街並みを保存しながら遊休物件を利活用する」という方向性がまとまった。ファンドから融資を受けた「NIPPONIA S A W A R A」（杉山義幸代表取締役）などが、区内の4棟の古民家や県指定文化財でもある中村屋商店などを約1億円かけて改修。兵庫県篠山市で同様の施設を扱っている会社に運営を委託し、3月30日にオープンした。

オープン前の3月22日には内覧会が開かれ、市民ら200人以上が見学した。和菓子店だった1棟にかつて勤めていたという香取市津宮の主婦高木和子さん(69)は、きれいに改修された客室を見て、「こんな建物になって感無量です」と話した。

ホテルは平屋と2階建ての2種類があり、すべて1棟貸し。各棟4〜6人が泊まれる。2階建ての棟は1階にリビング、2階に寝室がある。最低価格帯が1泊2食で1人約3万円と高めだが、7月までの予約が60件を超えるなど出足はまずまず。杉山さんは「来年3月までに、計10棟をホテルにしたい」と意気込む。宿泊の問い合わせは同ホテル（0120・210・289）へ。



ホテルに改修された古民家の外観



古民家を改修した棟の客室
中村屋商店の中にあるフロント（いずれも香取市）

（富森揚介）